

# つくしだより



平成28年1月号

新年を迎えて

都連会長 眞壁 博美

あけましておめでとうございます。皆さまの御健康と御多幸を心よりお祈り申し上げます。

◆オープンダイアログとは何か

新年にあたって何を書こうかと考えていた時、「オープンダイアログとは何か」(齋藤環著+訳・医学書院)を読みました。「オープンダイアログ」は、「急性期精神病における開かれた対話によるアプローチ」と呼ばれるように、主たる治療対象は発症初期の精神病とされています。

「オープンダイアログ」は、フィンランドの西ラップランド地方で30年も前から実践を積み重ねてきた治療法で、公的医療の対象です。

この治療法を導入した結果、西ラップランド地方において、統合失調症の入院治療期間は、平均19日短縮。薬物を含む通常の治療を受けた統合失調症患者群と比較すると、この治療では、薬物を必要とした統合失調症患者は35%、2年間の予後調査で82%は症状の再発がないか、ごく軽微なものにとどまり(対照群では50%)、障害者手当を受給していたのは23%(対照群では57%)、再発

率は24%(対照群では71%)に抑えられていたそうです。

齋藤先生もこの治療成績に衝撃を受け、半信半疑のままセイツクラ教授(オープンダイアログ治療の中心的人物)の論文を読んでみてオープンダイアログにすっかり魅了されてしまっているようです。

◆どんなことをするのか?

①即座にチームで会いに行く

患者もしくは家族から、オフィスに相談依頼の電話が入ります。電話を受ける人は、医師、看護師、心理士、看護師、PSWなど様々ですが、最初に相談を受けた人が責任を持って治療チームを招集し、依頼から24時間以内に初回ミーティングが行われます。参加者は、患者本人とその家族、親戚、医師、看護師、心理士、現担当医、そのほか本人にかかわる重要な人物ならば誰でもいいのです。このあたりの非常に「オープン」なところがこの治療法の特徴です。場所は、しばしば本人の自宅でおこなわれますが、どこでも構わないそうです。

②本人なしでは何も決めない

薬物治療や入院の是非を含む治療に関するあらゆる決定は、本人を含

む全員が出席したうえでなされます。スタッフ限定のミーティングなどは一切ありません。また、話し合いは「専門家が指示し、患者が従う」といった、上下関係は存在せず、対等な関係です。

③いきなり診断はしない

ミーティングで最終的な結論が出されるまでは、あいまいな状況が続くので、本人や家族の不安は大変なものですが、でも、いちばん不安定な時期に毎日ミーティングを開くことは、患者や家族の安心のためには極めて有効なやり方で、患者や家族が必要とする期間だけ続けます。通常、10〜12日間は継続されます。

◆日本で導入される可能性は?

日本にオープンダイアログを導入しようとする、最大の抵抗勢力は精神医学界になるでしょう。この治療法が統合失調症に対して有効であることが実証されれば、薬物療法一辺倒だった精神科医は自らの存在理由を見失うことになるからです。

しかし、困難だからと初めから諦めることなく当事者・家族、精神医療保健福祉の専門職が、この治療法に関心をもち、学び続けていくことが、大切なのではないのでしょうか。

十二月一日 精神障害者の交通運賃に関する街頭署名行動に参加して

副会長 松沢 勝

師走の一日障害者週間に先立ち、新宿駅西口駅前広場で、都連傘下の十八単会から五十名近くの会員のご参加を得て、二時間程の間に三百五十筆近くの署名をいただきました。ハンドマイクの故障をもとめせず、全員で頑張っていたただいたお陰です。

今回は、署名の獲得以外に一般の方々の交通運賃割引に関心とご支援を得るためのキャンペーンを兼ねており、用意した



チラシに対する反応は強かったと実感しました。この機会に、改めて運動を振り返ってみます。

今回の署名運動は、みんなねっと「JRなど交通運賃割引推進プロジェクトチーム」が中心となり、全国で百万筆の署名を集めよ

うとするものです。私たちの集めた国会請願署名は、関連する国会の委員会で話し合われます。その後、国会本会議で採択か不採択が

決まります。採択されれば、請願項目について国会が政府に働きかけ必要な法律を通すこととなります。これが、憲法第十六条に保障されている請願権の行使で、一人でも行使できますが、多数の力によって運動としての行使に成り、議員を動かす力になります。そして、この署名活動は、印刷、郵送などの事務費を使っています。その費用を募金としてご協力いただけるみなさんのおかげで取り組むことができます。そのため募金のご協力をお願いしています。

九月末現在の署名数は、全国で九六、七七七筆と目標の十分の一足らずです。これは、全国四十七都道府県の中で、三分の一の十四県で運動がそれぞれスタート直後の体制立ち上げ中のためですが、愛知、鹿児島、大阪、奈良等の好スタートを切った府県もあります。東京は、三、百六十六筆と目標の十万筆に対し、三%強ですが、これは体制が未だフルに動いてない状態と言えます。今後の第二回目、第三回目の集計で盛り返したいと考えています。

当面、この十二月末での集計に更なるご協力を期待しています。

次の集計は三月末の予定ですが、次期通常国会の会期末を睨んでの集計作業になると考えています。即ち、通常国会の会期末に、

国会議員にお願いして六月に国会に提出する予定です。

因みに、知的障害者の団体である全日本育成会は、平成元年全国二百万署名運動を展開し、全国署名は二百五十三万三二八二筆に達しました。そして、運輸省・厚生省・総理府に対して要望書、JR等に対する陳情書と併せて都道府県市町村議会から意見書が内閣総理大臣・厚生、運輸、建設、自治各大臣宛に提出されました。こうした運動の結果、三年後の平成三年一月一日より念願の運賃割引が適用実施されました。

今回は、追い風が吹いていると言えます。平成二十八年四月一日から施行される障害者差別解消法で、国及び地方公共団体等の長は、障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針に即して、不当な差別的取扱いの禁止及び合理的配慮の提供に関し、職員が適切に対応するために必要な要領を定めるものとされています。

藤井克徳氏（日本障害フォーラムJDF）が常々言っておられるように「運動は裏切らない」を念頭に置いて今後共、一般市民の視線と、他障害との格差を意識しながら本運動を進めていきたい。決して諦めないで！



## 精神障害者の交通運賃に関する署名活動と期間短縮のお知らせ

都連会長 眞壁博美

### ・署名の集計

去る12月1日、年末のお忙しい中、新宿駅西口で署名活動を行いました。出席されたご家族の皆さま、ご苦勞様でした。当日は45名の参加をいただき、集まった署名は342筆、配布したチラシは198枚で、カンパは4610円でした。

また、これまでお送りいただいた署名用紙を12月21日(月)に集計いたしました。19,955筆で、10万筆の目標の20%に到達したところです。

### ・期間短縮のお知らせ

通常国会の会期末が当初より早まったため、署名を集める期間も、4月末ではなく、3月末とします。ご理解とご協力をお願いいたします。

本年も、引き続き署名活動をよろしくお願いいたします。



## 「五〇年ぶりの同窓会」

都連副会長 川崎洋子

懐かしい顔がそろいました。東京つくし会設立50周年の記念誌に掲載の座談会のためにお集まりいただきました。

それぞれにまだご活躍でいらっしやいますが、このように一堂に会することはなかったと思います。久しぶりで会話が弾みました。

東京つくし会は昭和43年4月13日に結成大会を開きました。その時の初代会長山川嘉一氏は「精神障害者とその家族は、社会の偏見という厚い壁を、あたかもつめたかった地下で根をはり地表をやぶって芽をだすつくしのように、不屈の姿を公然と社会へあらわし、家族会運動を飛躍させる」と語っています。その精神のもと、活躍された方々のお話しには、障害の子の世話をしながら、偏見に立ち向かう姿勢に畏敬の思いをいただきました。社会の理解を得るために、偏見をなくすための運動を数々展開しました。

昭和40年に結成された全国組織「全家連」とともに、街頭署名、街頭アピール行進など、隠さず堂々と活動しました。

このような先輩方の活動があつて、いまの私たちがあることに感謝の気持ちと、私たちが負けずに頑張らなくちゃと思えました。



座談会出席者  
平成27年12月3日  
「スクワール麹町」レストラン「アピアン」

お昼は、フレンチイタリアンのお寿司でした。ちよつとなじみがないかなあと思いましたが、みなさん、召し上がってくださり、デザートも好評でした。

お互いに年を重ねていますが、いまだに想いは同じ。偏見をなくし、精神障害者とその家族が地域で普通に暮らせるようにしたい。そのための運動を続けていこうということ。50年前から比べると、社会の理解も広がっています。これから50年後、さらに暮らしやすい社会にするために、東京つくし会は活動をたやすいことはできないと先輩から教えていただいた会となりました。

(座談会の内容は50周年記念誌に掲載いたします)

## 平成27年度第1回多摩ブロック会議

都連会長 眞壁 博美

10月31日午後、多摩ブロック会議が府中市立ふれあい会館で開催されました。参加者は、18家族会29名でした。関東ブロック大会が終わってすぐだったので、皆さんからご意見・感想を出していただきました。おおむね良好な意見が出されました。

東京つくし会の名称変更問題では、「名称にこだわるより、活動の方針と中身をしっかりと決めて実行することが大切。名称は理事会に任せる」ということになりました。

「家族会リーダーを育てるために」ということで、「立川麦の会」の取り組みが報告されました。特に重要なのは、「役員会の充実」です。役員も家庭では大変な事情を抱えている家族です。役員自身が役員会に出て楽しいと思える運営を心掛けること、会員同士が仲良くなれる楽しい行事を企画し、役員だけが仕事をするのではなく、会員にも声掛けして力を貸してもらおうこと等が提案されました。

「精神障害者の交通運賃割引き署名」を集める手段を交流しました。地域の障害関係団体に返信用封筒を添えて署名集めをお願いしたり、地域にある老人会や病院の経営陣のトップをお願いして署名をあつめてもらうなどが出されました。今回は3月5日（土）13時半から16時、同じ会場に決まりました。

## 講演会のお知らせ

- ☆1/30(土) 精神疾患のある人の「からだ」の健康  
講師：東京大学医学部附属病院 精神神経科 特任講師 近藤 伸介氏  
主催：社会福祉法人 巣立ち会 ☎0422-34-2761
- ☆2/11(木・祝)生活支援センター（たいむ）10周年記念講演会  
講師：松本ハウスの漫談と講演、周愛利田クリニック副院長 花田 照久氏の基調講演  
主催：品川区精神障害者地域生活支援センター ☎03-5719-3381
- ☆2/13(土) 心の病気を重くしないコツ（仮題）主催：新宿フレンズ ☎03-3987-9788  
講師：東邦大学医学部精神神経医学講座教授 水野 雅文氏

※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いします。

☆賛助会員（敬称略）  
石井メンタルクリニック  
ありがとうございます。

5000円



## 編集後記

人を差別したり、偏見をもって評価したりするのは、自分がその人よりも優れているからだと考えることに始まるのでしょうか。

まだ、差別や偏見が有る日本の一般社会の中で、最近喜ばしいことがあります。それはハンセン病（らい病）患者の隔離政策を国が撤廃し、その長期にわたる人権無視を謝罪したことです。国は一九〇七（明治四十）年以来、らい予防のためとして三つの予防法を施行し、患者を隔離病棟へ強制収容し、その行動も厳しく制限しました。さらに妊娠しても生むことを禁じていました。

多くの患者は生家の姓を名乗ることを控え、姓を変更した人が多かったということです。要は、一般社会からの偏見と差別にひっそりと生きていたのです。

幸いなことに、今次大戦後になって特効薬が輸入され、完治する人が大幅に増加しました。現在では一〇数か所の国立療養所には一七一人の方が入所しているだけです。

願わくは、その人たちが一日でも早く完治して、一般社会の中で普通の生活を行えるよう祈るばかりです。

都連理事 塚本邦之

つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。